

栃木県少年サッカーちびっ子交流会 報告

栃木県少年サッカー連盟

【交流会概要】

目的 ・サッカーの楽しさを味わい、底辺の拡大と普及を目的とする。
・交流会であり補欠ゼロを目指す。また、選手のみならず指導者、保護者の育成を目指す。

期日 平成 29 年 12 月 2 日（土）3 日（日）

会場 A ブロック 青木運動場 （北那須・塩南・上都賀）
B ブロック 真岡総合運動公園（宇河・芳賀）
C ブロック 五十部運動場 （下都賀・両毛）

内容 1 日目・・・サッカー教室
2 日目・・・チーム交流会（5 v s 5 ミニゲーム・1 チーム 3 試合）

【1 日目：サッカー教室報告】

◆A ブロック・・・ヴェルフェたかはら那須サッカー教室

チームとして、選手約 20 名が、サッカー教室に協力してくれました。

150 名の子供たちを 8 グループに分け、ヴェルフェの選手たちがそれぞれのグループに 2 名ずつ入って指導してくれました。どのグループもドリブルやパス等、共通のメニューで進行され、事前に打ち合わせをしっかりとっている印象でした。

最後は、ミニゲームや選手対子供たちの大ゲームが行われ、盛り上がりました。

（報告者：地区理事 三好 健一郎）



◆B ブロック・・・栃木 SC サッカー教室

子供たち約 90 名が参加して行われました。栃木 SC から 2 名のスタッフが来てくれて楽しく行われました。

全体でのウォーミングアップでは、キッズピクスが行われ、子供たちは元気いっぱいにダンスを踊っていました。その後、栃木 SC スタッフ主導で、ボールフィーリングが行われ楽しい雰囲気ですたートできました。

その後、ターン、フェイント等のトレーニングが行われました。栃木 SC のコーチのほかに、地区からもコーチとして関わっていただき、丁寧な指導が行われていました。

最後に、チームをバラバラにしてミニゲームが行われて大変盛り上がりました。

(報告者：地区理事 青木 友之)



◆Cブロック・・・栃木ウーヴァ FC サッカー教室

子供たち約 120名が参加しました。栃木ウーヴァ FC の選手約 15 名が関わってくれました。

全体でのウォーミングアップと、7 セッションに分かれてのトレーニングやゲームが行われました。ドリブルやキック、パスやボールフィーリングやゲームなどがそれぞれの場所で行われました。各セッションにウーヴァの選手が入り、優しく指導してくれて、子供たちは、楽しく活動できました。

最後は、選手対子供たちの大ゲームをして終了し、子供たちは、大喜びでした。

(報告者：地区理事 久々宇 勤)



【2日目：チーム交流戦報告】

《全体》	参加チーム	63チーム
	参加人数	511人(1年生219人、2年生296人)
	未登録者数	95人(A:40人、B:55人、C:0人)

	参加チーム数	1年	2年	参加者数合計	未登録者数
Aブロック	24	92	105	197	40
Bブロック	21	59	90	145	55
Cブロック	18	68	101	169	10
合計	63	219	296	511	105

《未登録者について考察》

今回の交流会の取り組みの目玉でもある未登録者であるが、現状はさまざまである。

- 低学年ということで、登録していない。(学年が上がれば、今後登録する)
- 単体のクラブチームで行っているスクールから、参加。
- スクールのみで運営している団体から参加。
- 単体のチームで、友達を誘ってきて参加。

など様々である。中には、すでにチームに入って活動はしているが、低学年の場合は、公式の試合もないので登録していないという子供が多くいました。また、チーム所属ではなく、スクールにだけ通う子供たちの参加もありました。

最近、保護者のかかわりをほとんど必要としないスクール主体の団体に入る子どもが多くなってきている。

つまり、子供がサッカーをやりたくても保護者の援助なしでは活動できないという子供たちが多く存在していると思われる。

今後、そのような子供たちをどう4種のチームに取り組んでいけるかが、大きな課題である。

《交流戦報告》

どの会場でも、1チーム3試合が行われました。半日で終了ということで、日程的には少しあわただしかった。もっとやりたいという監督、コーチもいたが、この年代は、もう少しやりたい・・・ぐらいでちょうど良いと思う。

点数に差が出たゲームもありましたが、結果にこだわらず、子供たちの一生懸命な姿が見られ大変良かった。子供たちの笑顔を見ると、どのチームも、補欠ゼロをしっかりと意識してゲームに臨んでいたと思われました。また、チームの監督、コーチの言動や保護者の応援も、子供たちが伸び伸びやれるような声掛けが多かった。子供たちのプレーに一喜一憂しながら、保護者もゲームを楽しむ姿が見られ、温かい雰囲気の中で行われていました。

ゲームの進行では、各地区から数名の手伝いもあり、スムーズに行われた。最後の、参加賞も子供たちにとっては嬉しかった様子で良かったと思います。

【総括】

本県の4種の現状として、登録者数が減少傾向にあり、チーム登録数も全盛期の半数まで落ち込んでいる。県内事情としても、複数の学校で集まらないと試合ができないチームがほとんどである。

そのような現状を踏まえ、今年度、会長の案で、少年サッカー連盟主催でキッズの交流会を企画した。この交流会では、4種の登録に関係なく出場が可能であり、今後チームに入ってサッカーをやりたい子供にとっては、とても良いきっかけになると考えられる。また、もう一つのきっかけづくりとし

て、県内の三つのトップチームにサッカー教室に関わっていただけたことも大変良かった。関わってくれた選手やコーチの姿は、子供たちの憧れや、目指したい姿としてばかりではなく、保護者にとっても刺激があり、楽しい時間であったと思う。来年度以降も、継続していきたい。

本県は、県キッズ委員会の取り組みも盛んで、県内各地で他県にはないさまざまなイベントが行われていて、参加している子供も多い。また、参加した児童や保護者からも大変好評である。しかしながら、なかなか4種への登録につながっていないのが現状であり残念である。

そのような中、今回4種主催でキッズのイベントを企画したことは画期的なことである。今まで、キッズ年代のイベントは、県キッズ委員会にお任せ的なところがあり、指導者レベルで、キッズ～4種への連携が懸念されていた部分でもあった。しかし、今回4種がキッズ年代に目を向けたことで、指導者が、関わらざるを得ない環境ができたことは、非常に意義があることだと思う。また、参加した子供たちがチームと直結していることから、子供たちや保護者にとっても、チームの雰囲気や試合の楽しさも感じられたのではないかなと思う。

このイベントを通して、参加してくれた子供たちや保護者がサッカーの楽しさを味わい、もっとやりたいと思ってくれたり、また、他の友達にチームに入ってサッカーをやることの楽しさを伝えてくれたりすることで、今後登録者数が少しでも増えていくことを期待したい。

また、それぞれのチームでも、今回の交流会を通して、チームの人数を増やすためにはどうしたらよいか、考えるきっかけになってくれるとありがたいです。そのためには、底辺拡大について、今後チームの指導者や、保護者にも、少年連盟から啓発・発信していく必要があると思われる。

最後に、準備から当日の運営まで、各ブロックでお忙しい中携わっていただいた地区理事や県理事の皆様、各地区の役員の方々、現場でサポートしていただいたスタッフの皆様に感謝したいと思います。

【来年度への検討事項】

- 2日間の開催についてはどうか。1日で、午前、サッカー教室、午後交流戦でも良いのではないかな。
- 各ブロックで、会場を持ち回りにしていきたい。
- この場を利用して、子供たちへのかかわり方について、指導者や保護者へ発信ができないかな。
- 運営面で、他種別（3種、2種）とのかかわりが持てないかな。

